



心理尺度に対する「答えにくさ」は弁別できるか

分寺他(2024)の修正および再調査

分寺杏介(神戸大学)・馬場絢子(金沢大学)・福島綾(一宮メンタルクリニック)

✉ bunji@bear.kobe-u.ac.jp

※本研究は、公益財団法人電気通信普及財団の研究調査助成を受けて実施しました。



▲スライド

背景

- 心理尺度への回答には、様々な認知プロセスをこなす必要がある
【例】CASM response model (e.g., Tourangeau et al., 2000)

理解

想起

判断

回答

- 心理尺度への回答に際して、**回答者ひとりひとりが尺度に対して感じる主観的な「答えにくさ」を定量的に捉えられるようなツール**は十分に整備されていない
- 昨年度、回答者が感じる主観的な「答えにくさ」を定量的に評価できる項目案を作成したが、**項目間の十分な弁別が得られなかった**……

目的

回答者が感じる主観的な「答えにくさ」を定量的に評価できる項目案(および調査方法)の改善

尺度項目

「答えにくさ」評価項目

【総合】ユーザビリティ尺度日本語版(山内, 2015)を元に作成(A1-A3)

【個別】先行調査(馬場他, 2025)および回答プロセスの知見(Tourangeau et al., 2000)を元に「答えにくさ」の原因を具体化した項目を作成(B1-B8)

回答困難項目

評価項目に対応した「答えにくさ」を含むと想定される項目を作成

▲ 下表中の枠付きが「想定」
+「ダブルバーレル」「多重否定」を持つ項目

結果

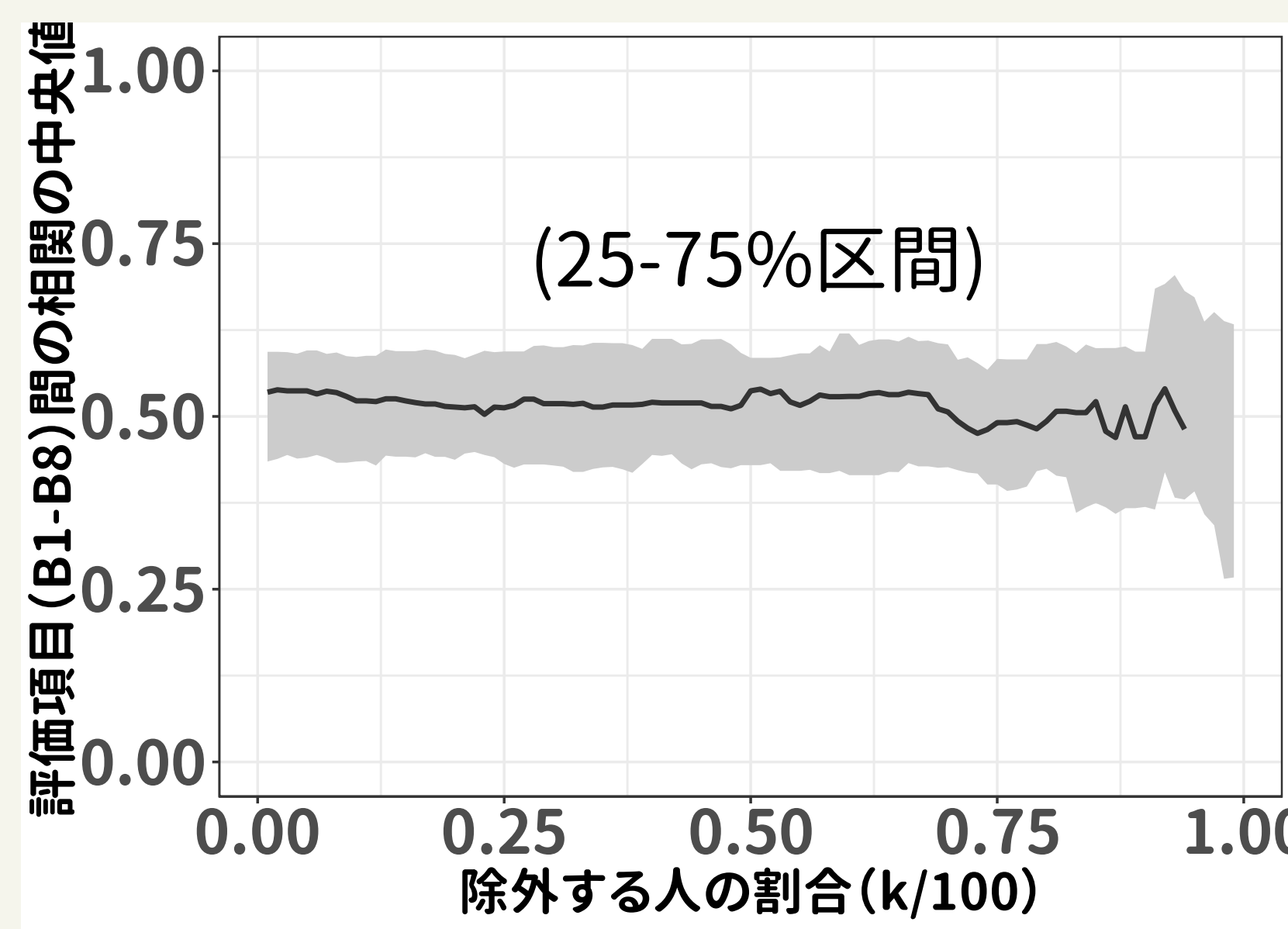
【各項目の平均点】5件法: **答えにくい** **答えやすい**

「答えにくさ」評価項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	E1	E2	E3
総合	A1 この項目は回答しやすいと感じた	2.17	3.86	1.57	1.79	2.55	3.05	3.55	3.73	3.76	4.63	4.06	4.19
	A2 この項目はたいていの人が簡単に回答できるだろうと感じた	2.02	3.74	1.73	1.93	2.55	3.02	3.34	3.82	3.53	4.48	3.93	3.96
	A3 この項目に正しく回答できたと確信している	2.78	4.05	2.38	2.71	3.22	3.58	4.05	3.97	4.06	4.67	4.2	4.32
個別	B1 この項目にはわかりにくい言葉が入っていると感じた	4.24	1.4	3.5	3.71	1.77	1.63	1.33	1.52	1.37	1.29	1.29	1.3
	B2 この項目に関する自分の状態がその時々で変わりやすいために、回答を迷った	2.63	2.71	3.2	2.95	2.15	2.59	2.47	2.15	1.72	1.88	2.3	2.04
	B3 この項目の意味がわかりにくかった	3.89	1.59	4.35	4.21	2.5	1.94	1.49	1.98	1.41	1.33	1.45	1.39
	B4 この項目は解釈の仕方によって、回答が大きく変わりうると感じた	3.37	2.39	4.09	3.77	2.79	2.54	2.06	2.53	2.31	1.94	2.05	2.1
	B5 この項目が指す状況に置かれている自分を想像することが難しかった	3.58	1.75	4.03	3.5	3.48	2.56	1.87	1.94	1.64	1.51	1.55	1.77
	B6 この項目に関連することを正確に思い出すのが難しい	2.93	1.81	3.39	2.98	2.94	3.28	1.85	1.77	1.67	1.64	1.55	1.78
	B7 この項目に正直に回答するのをためらった	3.01	1.63	3.06	3.01	2.3	2.01	2.68	1.73	2.11	1.45	1.54	1.73
	B8 この項目では、各選択肢がどの程度を指すのかわかりにくかった	3.41	2.18	4.03	3.59	2.79	2.48	2.24	2.21	2.31	1.78	1.93	2.02
「わからない」選択率(%)		34.6	0.61	45.2	11.2	27.3	12.1	2.22	1.61	4.14	0.1	0.3	0.5

【相関係数】上三角要素はペアワイズのサンプルサイズ

	A1	A2	A3	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8
A1	1	732	612	792	744	744	624	696	528	684	636
A2	0.794	1	660	732	696	780	564	660	648	660	540
A3	0.688	0.704	1	720	672	624	540	576	588	600	600
B1	-0.595	-0.545	-0.562	1	672	672	696	672	576	684	624
B2	-0.467	-0.229	-0.242	0.297	1	624	612	756	576	660	564
B3	-0.748	-0.514	-0.603	0.721	0.590	1	648	648	684	792	624
B4	-0.504	-0.506	-0.439	0.564	0.407	0.645	1	564	660	576	564
B5	-0.632	-0.581	-0.417	0.678	0.403	0.706	0.550	1	648	672	660
B6	-0.452	-0.492	-0.489	0.500	0.398	0.604	0.451	0.552	1	516	720
B7	-0.499	-0.427	-0.575	0.463	0.335	0.597	0.404	0.565	0.629	1	660
B8	-0.667	-0.371	-0.471	0.548	0.461	0.527	0.529	0.660	0.438	0.434	1

【感度分析】回答時間が短い人から除外 ▶ 真面目と思われる人が残る



参考文献

馬場 絢子・分寺 杏介・福島 綾(2025). 心理尺度回答におけるクライアントの「つまずき」と心理職のサポート 心理学研究.

Tourangeau, R., Rips, L. J., & Rasinski, K. A. (2000). *The psychology of survey response*. Cambridge University Press.

山内 繁(2015). エンジニアのための人を対象とする研究計画入門 丸善出版

考察

評価項目間の相関はやはりまだまだ高い

▲ 少なくともウェブ調査レベルの集中力では認知プロセス(B)間を弁別した評価は難しい?

最初に「答えにくさ」を覚えてしまうと、その先のどこでつまずいているかが弁別できなさそう

ウェブ調査よりも深いエンゲージメントを求める実験的環境での最終確認を行う

▲ 「頑張れば弁別できる」のか、「何をどう頑張っても弁別できない」のか(現在データ収集中)

「答えにくさ」をリッカート尺度で尋ねること自体に無理があるのかもしれない